

文学部歴史学科文化遺産学専攻について

1. 背景

文学部をさらに発展させるためには、既存の教学資源を活かし、教育内容の充実と質の向上を図る必要があると考える。文学部では2012年度に臨床心理学科を開設するとともに、史学科を歴史学科へと名称変更をおこなう等、時代に合わせた改革に取り組み、学部教育の充実をおこなってきた。

今般、歴史学科各専攻内で、将来構想をも視野に入れた学部教育の充実方策の検討を行った結果、歴史学科の既存の教学資源を活かし、新たに「文化遺産学専攻」を2016年4月に開設するとともに、学部内の入学定員および収容定員を変更する計画をとりまとめた。

2. 教育の特色

文化遺産の歴史的意義を考え、将来へと守り伝えるための方法と技法を習得し、地域の文化的媒体として活用できる人材の育成。文化財の調査・研究、その保存と活用を行うための専門教育を通して、仏教美術・寺院建築・仏教儀礼等に向き合い、「建学の精神」を体現した自主的判断能力を持つ感受性の豊かな専門家の育成を教育目標とする。

①考古学・博物館学・美術史学（建築史学を含む）の3学構成—「物（もの）」から学ぶ—

龍谷ミュージアム・大宮図書館・考古学資料室の資料を中心に各地の文化財資料の歴史的活用をすすめながら、学習と実践の場とする。その結果、学生が主体となり、ミュージアム資料にかかわる研究成果の発表やワークショップをミュージアムで行うなどの連携事業の実現が大いに期待できる。

本専攻の特色のひとつであるフィールドワークでは、遺跡、寺院などの文化遺産の調査について、測量精度の最も高い機器を利用したデジタル図化やデジタル写真による記録を積極的に進めることになる。得られたデジタル情報は、汎用性のある形式でも保存し、地域の文化遺産として活用できる。

②高水準の文化財保存科学の習得—「物（もの）」を「残す」方法と技術の習得—

仏像や仏画などの仏教の歴史に関連する資料の分析を中心に、修理・保存・保管のための技術と方法を実践的に学ぶ。保存科学の基礎を学習し、「物（もの）」の性質に応じた保存の方法を模索する。現在、各地に残された仏教美術関連資料に関して、その保存・保管法を指導・助言できる人材育成が急務となっている。とりわけ、東日本大震災以降、経年的劣化に加えて被災等によって損傷した文化財のレスキューについての具体化が喫緊の課題となっている。しかし、これに対応できる機関は一部の研究機関に限られ、大学で行っているところは皆無に等しい。このような保存と保管法についての専門的技術の習得者を育成することは新専攻の特性ともなる。

③行政、各種博物館との連携による地域の文化遺産の活用—「物（もの）」を「活かす」体験—

歴史学科卒業生の係わる博物館、資料館、行政などとともに地域における研究成果の発表、交流の場をもうけ、積極的な文化遺産の活用を体験できるようにする。例えば、滋賀県立安土城考古博物館、京都府教育委員会、京都市埋蔵文化財センター、和歌山県立博物館、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、神戸市立博物館など、卒業生在職の施設は多く、これら施設との連携を強める。

3. 取得可能な資格

博物館学芸員、図書館司書、中学校教諭一種免許(社会)、高等学校教諭一種免許(地理歴史)
本願寺派教師 等

4. 学部収容定員

学科・専攻		2016 年度以降			現 行		
		入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
真宗学科		135	13	566	135	13	566
仏教学科		110	8	456	110	8	456
哲学科	哲学専攻	69	3	282	69	3	282
	教育学専攻	69	3	282	69	3	282
臨床心理学科		92	3	374	92	3	374
歴史学科	日本史学専攻	75	4	308	69	3	282
	東洋史学専攻	69	3	282	69	3	282
	仏教史学専攻	60	3	246	69	3	282
	<u>文化遺産学専攻(新)</u>	<u>44</u>	<u>3</u>	<u>182</u>	—	—	—
日本語日本文学科		94	3	382	94	3	382
英語英米文学科		94	3	382	94	3	382
合 計		911	49	3,742	870	45	3,570

5. 卒業後の進路

歴史学科の進路に、新たに文化遺産を活かした地域振興に関連する事業への進路がひらかれる。

学校教員、研究職、博物館学芸員、国家・地方公務員(都市計画、教育委員会)、観光産業、その他地域再生関連など。